

一般財団法人 全国科学博物館振興財団
全国科学博物館活動等助成事業(2021年度) 実施内容報告書

1. 事業課題名

特殊印刷技術を用いた来館者体験型導入展示の製作（202105）

2. 事業概要

本事業では、様々な寄生虫の宿主と寄生部位を視覚的に理解できる導入展示を製作した。具体的には、来館者が寄生虫のイラストをフラッシュ撮影すると、寄生された動物が撮影画面に現れる特殊印刷技術を使い、寄生虫の多様性という常設展示への導入とすることで展示空間の充実を図った。

3. 代表者氏名・組織名・職名

氏名：倉持利明

組織名：公益財団法人 目黒寄生虫館 職名：館長

4. 事業実施場所及び実施期間

目黒寄生虫館 1階展示室において、2022年3月16日から公開した。その後は常設とするため、終了時期は設けない。

5. 事業背景と目的

本事業の目的は、多様な寄生虫が様々な動物に寄生しているという、1階常設展示のテーマに自然につながる導入部の展示構成の構築にある。2019年度に当館が実施した来館者アンケートによれば、全体の9割が「初めての来館」と回答した。見学をひとつのきっかけとして、継続して寄生虫学に興味を持ってもらうためには、わかりやすい展示、とりわけ導入部の展示が重要である。しかし、館内は決して広くなく、これ以上展示空間を拡大するには限界があった。そこで、エントランスからの風の吹きこみを防ぐ風除壁を効果的に利用することで、常設展示の導入に活用することを起案するに至った。

風除壁にはこれまで寄生虫のイラストが様々に描かれており、そこで記念撮影をする方が多く見受けられた。この印象的な「撮影」の行動に着想を得て展示更新のポイントとしたのが、「フラッシュプリント」と呼ばれる特殊印刷シートの取り付けである。フラッシュを点灯した状態で写真を撮ると、通常光では認識できない画像が画面上に現れる技術で、大型広告や販促パネル、イベントのフォトブースなどに使用されることが多い。一方で、博物館や美術館ではフラッシュ撮影自体が禁止され

ているといった理由もあって、先行事例が少ない。サンシャイン水族館や横浜市立金沢動物園などの実践例はあるが、いずれも特別展示など一時的な展示に留まっている。その点、常設展示で使用するという新規性にも注目が集まることが予想された。さらに、携帯端末の普及により誰もが容易に撮影できるようになった今日、同時に新型コロナウイルス感染防止の対策として、各博物館では来館者同士の接触を伴うハンズオン展示やタッチパネルの使用を大幅に制限している中で、本事業で製作される展示が非接触型であることの意義はきわめて大きい。翻って本事業では個人所有の端末を使うことで抵抗感なく展示を体験することができる。不安の軽減は、日々の消毒を担当する職員にとっても同様である。職員の負担を増やすことなく、来館者の関心をさらに高める導入展示の製作が急務であった。

6. 事業の具体的実施内容

本事業で新設したのは、1階展示室の風除壁のガラス（幅97cm×高さ240cm）の両面に貼り付けた導入展示用の印刷シートである。入口側には特殊印刷が施されており、複数の寄生虫が描かれている（写真①）。この画像をフラッシュ撮影することで、画面上にはそれぞれの寄生虫の宿主と部位が浮かび上がる仕組みである（写真②）。裏面はフラッシュ無しでも寄生虫と宿主の関係性が両方見えるようにデザインされているほか、テキストで補足内容を解説している（写真③）。

風除壁の前には、「フラッシュ撮影により画像が変わる」ことを紹介するパネルスタンドを設置しており、来館者に積極的な利用を促している。

施工に先立ち、2月28日の休館日に風除壁の鉄柱の塗装を行った。シートの貼付けは3月15日の休館日に専門業者によって行われた。従来貼られていたステンシルシールの剥離作業の後、両面にシートを取り付けた。翌3月16日から一般公開を開始した。

7. 事業の成果

本事業により、来館者は入館して間もなく“世界には様々な寄生虫が存在する”ことを理解し、常設展示のテーマ「寄生虫の多様性」へとシームレスにつながる導入が可能になった。また、自らがフラッシュ撮影を行うという双方向性のある展示体験を通じて、来館時の印象は画像とともに強く記録される。寄生虫と宿主がともに写った画像は手元に残り、見学後に見返することができる。さらにコロナ渦にあって非接触での体験型展示を達成した意義は大きい。

また、寄生虫を見たことがない来館者にとっては、「寄生虫＝怖い、気持ち悪い」という先入観を持つ人も少なくない。しかし、本事業で作製した画像は、様々な寄生虫の形態的特徴をわかりやすく、かつ齟齬のないようシンプルに図案化して表示しているので、来館者はそれらの先入観を持つことなく、展示に興味をもってもらえることが期待される。さらに、携帯端末の普及により誰もが容易に撮影できるようになった今日、本展示がSNSで広く拡散されることで、当館ならびに寄生虫学全体の関心がさらに高まる効果も期待される。

8. 共同事業者の氏名及び所属組織名・職名（敬称略）

なし

9. 事業の公表

印刷されたシートには、当該助成を受けた旨を表示している（写真④）。目黒寄生虫館公式ウェブサイト（<https://www.kiseichu.org/>）には、展示初日の2022年3月16日に「展示室1階に体験型展示を新設しました」という題で記事を更新し、助成事業であることを公表した（写真⑤）。それ以外に、「全国科学博物館協議会ニュース Vol.52 No.3」の「リニューアル情報」への投稿を予定しているほか、マスコミ各社へのリリースを行い、毎年12月に発行する当館の定期刊行物「むしはむしでもはらのむし通信」202号に、展示更新の記事を掲載する予定である。これらについては、刊行物の発行後に改めて報告する。

10. 実施状況写真等



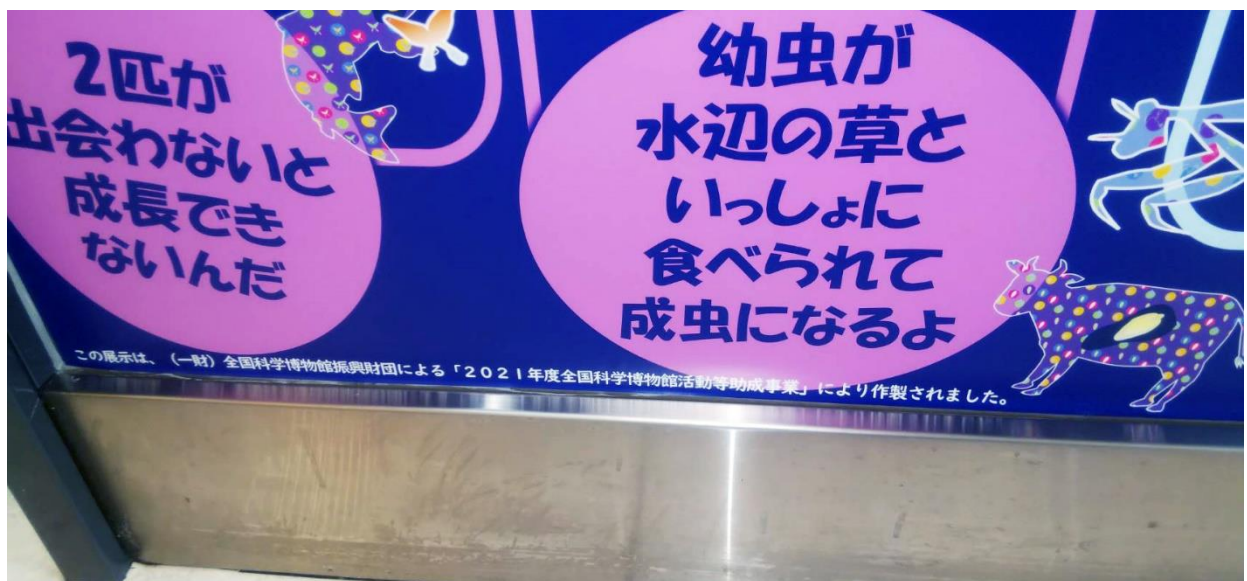
写真① 風除壁を活用した体験型展示
（フラッシュ使用前）



写真② 風除壁を活用した体験型展示
（フラッシュ使用后）



写真③ 風除壁の裏面。画像は変化せず、表面の解説が追加されている。



写真④ 助成を受けたことを示す掲示



公益財団法人
Meguro
Parasitological
Museum

公益財団法人
目黒寄生虫館

English Home

展示・イベント

研究員ブログ

刊行物・アーカイブ

お問い合わせ

ご寄付のお願い



最新記事



展示室1階に体験型展示を新設しました。



名古屋市科学館 特別展
「大地のハンター展」
に協力しています

ご見学時のお願い

カテゴリ

特別展示 (43)

イベント (42)

常設展示 (19)

その他 (21)

タグ

リニューアル

開催終了

共催・協力

新設

6 時間前

展示室1階に体験型展示を新設しました。



展示室1階には、入口から吹き込んでくる風除けのためにガラス製の風除壁（ふうじょへき）が設置されています。これまでは寄生虫のイラストが一面に描かれていました。以前に見学に来られた方は、ここで記念撮影をされた方も多いのではないでしょうか。

このたび、その風除壁に驚きの仕掛けを組み込みました。お持ちのスマホやカメラのフラッシュをONにして撮影してみてください。一体何が起ころうでしょうか？エンタメ性溢れる新たな体験型展示の登場です。そして、裏側の解説も是非ご覧ください。寄生虫を学ぶにあたって大切なメッセージが込められています。なお、これらのイラストは、サイエンスインストラクターの小澤佳奈さんにお描きいただきました。

当館は決して広くありませんが、風除壁を新たな展示空間とすることで、館内を最大限活用しました。これからも小さな工夫を重ね、少しずつリニューアルを続けてまいります。

この展示は、（一財）全国科学博物館振興財団の「2021年度全国科学博物館活動等助成事業」の助成を受けました。

タグ：

新設



常設展示

写真⑤ 常設展示の新設を報告する公式ウェブサイトの画面